

**製品名: MT-ATP8 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14201**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	MT-ATP8
別名	ATP synthase protein 8 (A6L;F-ATPase subunit 8)
遺伝子 ID	4509.0
SwissProt ID	P03928
免疫原	ヒト MT-ATP8 由来の合成ペプチド アミノ酸範囲: 30-110

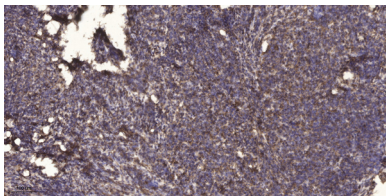
**背景**

ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1)と、膜プロトンチャンネルを含む

F(0)の2つの構造ドメインで構成され、これらは中心茎と周辺茎によって連結されています。触媒反応中、F(1)の触媒ドメインにおけるATP合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトン輸送と結合します。プロトンチャンネルの主要構成要素。ミトコンドリア膜ATP合成酵素 (F(1)F(0) ATP合成酵素または複合体V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を越えるプロトン勾配の存在下で、ADPからATPを生成します。F型ATPaseは、膜外触媒コアを含むF(1)と膜プロトンチャンネルを含むF(0)の2つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で結合しています。触媒作用の間、F(1)の触媒ドメインでのATP合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトンの転座と結合しています。複合体F(0)ドメインの一部です。膜内でサブユニットaと共に位置するマイナーサブユニット。機能:サブユニットI、II、IIIは、酵素複合体の機能コアを形成します。類似性:ATPase A鎖ファミリーに属します。類似性:ATPaseタンパク質8ファミリーに属します。類似性:シトクロムc酸化酵素サブユニット3ファミリーに属します。サブユニット:F型ATPaseには、CF(1) - 触媒コア - とCF(0) - 膜プロトンチャンネルの2つのコンポーネントがあります。サブユニット:F型ATPaseには、CF(1) - 触媒コア - とCF(0) - 膜プロトンチャンネルの2つのコンポーネントがあります。CF(1)には、アルファ(3)、ベータ(3)、ガンマ(1)、デルタ(1)、イプシロン(1)の5つのサブユニットがあります。CF(0)には、a、b、cという3つの主なサブユニットがあります。疾患: MT-ATP6の欠陥は、乳児両側線条体壊死[MIM:500003]の原因です。両側線条体壊死は、リー症候群に似た神経疾患です。疾患: MT-ATP6の欠陥は、レーバー遺伝性視神経症 (LHON) [MIM:535000]の原因です。LHONは、視神経機能不全による急性または亜急性の中心視力喪失を引き起こす母性遺伝疾患です。一部の患者では、心臓伝導障害や神経学的欠陥も報告されています。LHONは、呼吸鎖複合体に影響を及ぼす主要なミトコンドリアDNA変異によって発生します。疾患: MT-ATP6の欠陥は、リー症候群 (LS) [MIM:256000]の原因です。

## 研究分野

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、45分)。